

# 日本児童英語教育学会

(The Japan Association for the Study of Teaching English to Children)

## 第 1 回研究大会 兼 第 52 回中国・四国支部研究大会のご案内

日本児童英語教育学会 会長 アレン玉井光江  
同 中国・四国支部 支部長 平本 哲嗣

拝啓 立秋が過ぎ暑さが和らぐ今日この頃、JASTEC 会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は日本児童英語教育学会中国・四国支部の発展のためにご協力いただきありがとうございます。

さて、本支部におきましては、毎年春と秋に児童英語教育に関する研究会を重ねておりますが、本年度は JASTEC 第 1 回研究大会を兼ねて、来る 9 月 3 日(日)に下記要領により第 52 回中国四国支部研究大会を開催する運びとなりました。

小学校英語教育に関わる先生方、また、児童英語教育の現場でご活躍の皆様にとりまして、本大会が有益な情報発信と情報交換の場となることを心より願っております。今大会は、オンライン実施ということで、全国よりどなたでもご参加いただけます。JASTEC 会員はもとより、小学校や児童英語教育の現場でご活躍の皆様、また小学校外国語活動・児童英語に関心をおもちの皆様、どうぞお誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

敬具

記

日 時: 2023 年 9 月 3 日(日)

12:40 受付開始 13:00 開会 16:35 終了予定

会 場: オンライン (Zoom)

※研究大会前日 18 時に、メールにて参加用の URL 等お知らせいたします。

※Zoom の操作方法については、事前に公式の[サポートページ](#)をご確認ください。

参加費: 会員無料(今年度分の会費が未納の場合は、お早めに納入をお願いいたします。)

非会員: 一般 1000 円, 学部生 500 円

※非会員で入会希望の方は、下記申込ページより年会費をお支払ください。

本大会より、会員として参加ができます。

申 込: 会員・非会員にかかわらず、事前申し込みが必要です。

[こちらのリンク](#)または[二次元バーコード](#)から申し込みフォームに進み、

必要事項を記入・送信してください。

申込期限 2023 年 9 月 2 日(土) 17:00

※キャンセルは受け付けておりませんのでご注意ください。

※領収書は、受領証やクレジット決済の証明をご利用ください。

別途必要な場合、本ファイル 2 ページ目に示す事務局までお問い合わせください。



## 第 1 回研究大会 兼 第 52 回中国・四国支部研究大会 プログラム

12:40ー 開場

13:00ー 開会のあいさつ

13:10ー13:50 自由研究発表1

「初等英語科におけるオンライン学修ポートフォリオを用いた反転授業に関する学習意欲の調査」

発表者：竹野純一郎（岡山理科大学）・國本和恵（岡山理科大学）

本研究では、岡山理科大学教育学部初等教育学科に在籍する大学生を対象に、学修ポートフォリオ(Mylog)を用いて、アクティブ・ラーニングの一形態である反転授業の実践を行った。そして、授業実践についての質問紙法調査を行うことで、反転授業に関する学習意欲を調査した。1 回目は 1 年次後期「初等英語科内容論(全 8 回)」、2 回目は 2 年次前期「初等英語科教育法(全 15 回)」で反転授業を実施し、「初等英語科教育法」の反転授業部分(第 1 回～第 8 回)の終了時に、41 名を対象に Google フォームによるアンケート調査を実施した。反転授業での学習意欲について、全体的に平均値が高かったことから、学生が反転授業に意欲的であったこと、第 1 回目より第 2 回目の反転授業の方が Mylog から講義資料をダウンロードする自学自習に慣れ、自ら積極的に考えて学習することで理解が深まる、などの結果が得られた。

13:55ー14:35 自由研究発表2

「主体的に外国語でコミュニケーションを図ろうとする意欲を高める実践

～留学生との国際交流を通して～

発表者：永島悠一（新潟県魚川市立魚川小学校）・大場浩正（上越教育大学）

本実践の目的は、大学の留学生との対面交流が児童の主体的に外国語でコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めるかを検証することである。小学校 6 年生 2 クラスの児童が、3 人の留学生(ブラジル、パキスタン、マラウイ)と本年 5 月から 7 月の間に 3 回の交流を行った。交流内容は、①自己紹介、②糸魚川おすすめ 1 日ツアー提案、③おすすめの都道府県紹介であった。特に、②では、留学生に糸魚川の魅力を知ってもらうために、班で協力して地元の魅力を調べ、交流会では留学生に一回で伝わらなくても、あきらめずに粘り強く外国語でやり取りする姿が見られた。交流後のアンケートでは、約 8 割の児童が 1 学期の留学生との交流によって、もっと外国の人とつながりたい(コミュニケーションしたい)と回答しており、留学生との国際交流が児童の海外への興味・関心を高め、主体的に外国語でコミュニケーションを図りたいという意欲につながったと思われる。

14:35ー14:45 休憩 .....

14:45ー15:25 実践報告

「外国語活動・外国語科における効果的な ICT 活用を目指して」

発表者：三木紀衣（呉市立和庄小学校）

現在、小・中学校においては、GIGA スクール構想の実現に向け、児童・生徒に一人一台端末が整備され、様々な教育活動の中で、学びのツールとして活用されている。所属校においても、全児童及び教職員へ iPad が貸与され、効果的な活用を目指した教育活動を進めている。また、学習支援アプリ「ロイロノート・スクール」やデジタル教科書、昨年度からは AI 型デジタルドリル「Qubena」等が整備され、仲間とともに創る学びや一人一人に応じた学びを通して、子どもの主体的な学びの実現を目指した授業改善の推進を進めている。本発表では、発表者が所属校において、外国語活動の授業でこれまでどのように ICT を効果的に活用し指導してきたか報告する。また、外国語科について、デジタル教科書をどのように活用できるか提案し、さらなる ICT の効果的な活用に向けて、今後検討すべき点を議論していきたい。

15:30-16:30 講演

「子どもの好奇心を促し、自ら学びを創り続けるための ICT の効果的な活用方法」

講演者: 東口 貴彰 氏 (関西大学初等部)

一人一台、タブレット端末などの ICT 機器を子どもたちが活用できる時代。外国語科の授業の中でも ICT を効果的に活用して子どもたちの資質能力をより高めたいと考える先生は多いのではないのでしょうか。とはいえ、まずは指導者自身が ICT を活用してできることを知り、それらをどのような場面で、どのように活用するのが効果的かということを考える必要があります。ICT は効果的に活用することで、子どもたちの主体性を高め、コミュニケーションを豊かにしたり、創造性を育みながら、同時に英語を自発的にアウトプットする姿につながることができます。しかし、ICT をただ子どもたちに闇雲に使わせても、そういった姿には当然結びつきません。そこで本講義では、外国語科における授業づくりや単元構成などの本質的な部分をお話しし、その中でどのように ICT を活用するのが効果的かを子どもたちの実際の姿や変容など、多くの具体例をお示ししながら紹介します。

16:30-16:35 閉会のあいさつ

【 お問い合わせ先 】

JASTEC 中国・四国支部事務局

〒739-8521 広島県東広島市鏡山 1-7-1

広島大学外国語教育研究センター 山内優佳 研究室内

E-mail: yukay@hiroshima-u.ac.jp